

**事業所名** グループホーム うずき  
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成20年 3月31日

**評価機関名** ㈱東京リーガルマインド  
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

**評価調査員**  
A:現職 高等学校非常勤講師  
資格・経験 看護師、社会福祉士、福祉住環境コーディネーター  
B:現職 社会福祉法人生活指導員  
資格・経験 身体障害者職業生活指導員、社会福祉主事、ホームヘルパー2級、介護支援専門員、難病患者等ホームヘルパー

**自主評価結果を見る** (事業者の自主評価結果にリンクします)

**評価項目の内容を見る** (評価項目にリンクします)

**事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)**  
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

### 外部評価の結果

**講評**  
全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

・国道沿いにある法人内のグループホームで、特別養護老人ホームの奥に位置しており、車の音はほとんど聞こえず静かな環境である。新倉敷駅やスーパーマーケットなども近く、生活にも便利な環境である。建物は、自然の素材をふんだんに使った造りであり、法人内の窯で焼かれた塩釉がやさしく迎えてくれる。  
・民家が隣接し、地域住民との交流も図られている。年間を通して多彩な行事を計画し、地域交流スペースで開催される行事には、入居者も参加し、法人の祭りには近隣住民も参加している。ボランティアに訪れる方も多く、入居者の話し相手や活動の手伝い、病院への送迎などにも協力が得られている。幼稚園児や小学生の訪問があり、世代を超えた交流も図られている。  
・職員は、穏やかで明るく、入居者と一つの家族のような気持ちで接し、良い人間関係を保っている。入居者が、自由に自分のペースで生活できるように支援しており、また、入居者の新たな可能性を見つけ出し自信につなげるような支援も志している。「昨日よりは今日がいい日であるように」との思いで接しており、入居者が穏やかに暮らせていることがうかがえた。管理者と職員間のコミュニケーションがよく図られており、職員がそれぞれの仕事に自信を持って取り組んでいる様子がうかがえる。職員に対する家族からの信頼も厚い。  
・建物周辺には、梅、桜、花ミズキなどが植えられ、近隣にはリンゴなどの果樹も植えられていて、四季折々の変化を感じることができる。庭にはテーブルやイス、ベンチが置かれ、お茶を飲んだり、桜の木の下で食事をしたりなど外気に触れながら生活することを大切にしている。

**特に改善の余地があると思われる点(記述)**  
(記述)特に改善の余地があると思われる点はなかったが、さらにサービスの質を向上させるという意味で  
・地域に密着したサービスを展開しており、そのことを盛り込んだグループホーム独自の理念を作り上げられることを期待する。  
・法人の広報誌はあるが、今後はホームページ独自の「たより」を作り、地域に情報を発信したり、さらにグループホームを理解してもらう機会として役立ててほしい。

### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述)		
	<p>・職員は、入居者と一つの家族のように自然な気持ちで接し、見守りを中心に必要な時にはいつでも手を差し伸べられるといった関係を大切にしている。</p> <p>・家にいた時には家族関係が必ずもうまくいってなかった入居者もいるが、職員には、家族間の関係が良くなれば入居者も気持ちが楽になるのではとの思いがあり、立ち入り過ぎない可能な範囲で再構築の手助けをしていきたいと考えている。</p> <p>・入居者本人の願いと、職員の思いの違いを確認しながら、その人らしさをアピールできる方法は何かを考え支援している。</p> <p>・昨日よりも今日がいい日であるように、ゆったりとした気持ちで過ごせるような生活を支援していくことを目指している。</p>		

### II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)		
	<p>・入居者のペースに合わせながら、職員は常に五感を働かせ、気配り・目配りで入居者にとって安心して落ち着いた生活を支援している。</p> <p>・加齢に伴い入居者の身体機能の低下が見られ、以前よりは外出の機会が減りつつあるが、外部との関わりを閉ざさないよう、積極的に外に出る機会を作りたいと考えている。</p> <p>・職員は、入居者や家族の思いを日々の生活支援に生かされるよう取り組んでいる。どの職員も入居者との良い関係が保たれており、入居者が落ち着いて生活できている。職員の年齢層が40歳代から60歳代であることや経験年数が長いことも入居者や家族に安心感を与えている。</p>		

### III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にされた整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)		
	<p>・入居者に対し、「これはできない」というよりは「できるかもしれない」という見方をし、可能性を引き出す努力をしている。</p> <p>・菜園で採れた野菜や、庭で採れた梅などの漬け方を入居者に教えてもらうなど、入居者の経験や持てる力が発揮できるように支援している。</p> <p>・発語の少ない入居者に対しては、どんな話題なら積極的に発言できたり生き生きできるかなどを見極めている。その結果、会話が増えてきたり、他の入居者とも分け、歌を歌えるようになった入居者があり、家族からも喜ばれている。</p> <p>・居室に入る時には、プライバシーの保護に配慮し、トイレを使用中ではないかなど確認しながら入室している。</p> <p>・入居者の写真を撮る時には家族の了解を得ている。機関誌に載せる場合も、家族に載せていいかどうか確認している。</p>		

### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)		
	<p>・各種マニュアルが整備されており、職員が統一した方法で介護を提供できるようにしている。職員は、常にマニュアルで確認しながら進めている。</p> <p>・職員は法人内での研修や外部研修に積極的に参加し、必要な知識技術の習得に努めている。</p> <p>・事故が発生した時には報告書を作成し、事故を予防できるように検討している。今後は、例えば、転倒しそうな転倒に至らなかったというような例についてもデータを集積し、分析されれば、より危機管理に対する認識が深められると考える。そのためには、事故なのかヒヤリハットなのか明確にできるような書式を検討されることを期待する。</p>		